

地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.15

「3か月経ってみて」



今月は
國吉美貴が
書いています



地域おこし協力隊の農業部門で活動している國吉美貴（くによし・みつき）です。名前だけ見ると女性と勘違いされることが多いのですが男性です（笑）。岡山県生まれ。中学卒業後は兵庫県に10年間住んでいましたが、移住を決意…！魅力たっぷりの大山へ妻と2人でやってきました！

私は大学時代から農業に強い関心がありました。生きるために必要である食べ物を作る農業は、シンプルでありながらも奥が深く、とても魅力的な仕事だと思います。今後の研修を通して農業のノウハウを学び、立派な農家になれるよう努めます。

研修がスタートして3か月が経ちましたが、毎日が新しい経験ばかりです。

梨の研修では、梨の花の交配、摘果、袋かけ…この時期はたくさん作業がありました。4月には白い花だった梨が、今は小さい梨の実になっていて単純に感動しました。

ブロッコリーの研修では、主に収穫・箱詰め・出荷作業

を行いました。生産農家さんの朝（ほとんど深夜）は早く、5月の研修は収穫のピークでした。ヘッドライトを装着してブロッコリーの収穫作業をするので「不審者では」と、警察に通報された経験もあるといった話も研修先の農家さんから聞きました。

白ネギの研修では、種まき・定植作業・草取り・収穫・出荷調整作業をしました。白ネギは出荷調整作業や草取りなど、自分のペースを作りやすい作業が多かった印象です。

どの作物をやるにせよ、基礎はとても大切なものだと感じました。これからの研修も頑張ります！



農業部門の地域おこし協力隊は、「大山町アグリマイスター*」の指導で農業研修しています。7月からはそれぞれが取り組む作物を決め、担当マイスターの下で研修します。

*アグリマイスターとは、大山町の地域特産物である「梨、ブロッコリー、白ネギ」の生産技術に関して極めて優れた技術をもつ方を町が認定しているものです。

また、ここでの生活も3か月経ちました。大山町は自然が美しく、食べ物がおいしく、人柄がいいです。「イノシシ食べにおいで！」「野菜持っていない」と近所の方々が農家さんたちが気さくに声をかけてくださるので、人の温かさにふれては、大山に来てよかったと思います。

今はまわりの方々に支えられてばかりですが、「（國吉が）大山に来てくれてよかったよ」と思っていただけのように、頑張っていきたいと思えます。